

・地域の空き地空き家の状態 - 現地調査 -

コロナ禍で現地調査させていただいた方の空き家空き地状態。人口減少や使いきれない床の増加は本対象地域だけでなく、地方では多くの地域で抱えている課題ではないだろうか。これらの地域での解決は人口減少の歯止めをかけ、床を使いこなすきっかけが必要になるのではないだろうか。

I さん宅

- ・高齢者 一人暮らし
- ・白壁通り沿い住み
- ・倒壊寸前の家持ち
- ・空き家所有
- ・住み手後継者なし



M さん宅

- ・土地所有
- ・住み手なしの空き家
- ・倒壊寸前の家持ち
- ・手のついていない物置小屋



・観察 - 町の営み -

既存の公共建築では見られない資源や環境を活かしたうきは市吉井町に溢れる出来事を検索。一つ一つはとるに足らないが、町固有の魅力や文化を構成している。田舎ならではの顔見知り集団により結成されたイベントが数多くあることに気づく。町を活性化させるイベントであり、世代を超えた交流により地域に残り続ける伝統や文化を体験する機会を率先して行っていることが見えてきた。しかし、建築はどうだろうか。対象地域に建て替えられた公民館は機能性を重視したモダニズム以降の建築であった。公共建築として批判ではないが、現在感染病により、一般市民は立ち入り禁止が続いている状態である。地域に残り続ける公共建築として本当に良いだろうか。普通の暮らしにおけるコミュニティこそ消えて無くなることのない公共性であり、消して資本主義ではない残り続けるものである。地域の資源となる営みと地域外から来られるヨソモノを巻き込みながら、空間として機能や用途だけでなく、地域の営みの見える公共建築在り方が見えてくるのではないだろうか



・建築家の役割 - 地域の公共建築としての在り方 -

建築家はその町に対しては、地域外の人間つまり他者同然として扱われます。町のらしさやその場所にふさわしい事が地域内の人間だけでしか体感できないわけでは、ないと考えています。地域外からきた他者同然の建築家が町を理解して、地域住民を受け入れ、きっかけを与えようとする。そのように外部からの視点は、地域として見慣れすぎた出来事や風景を可視化し、建築として大きな出来事することにより、より魅力をふくらます事ができると思います。既存の都市計画による公共建築の在り方は、小中学校・公民館・市役所など、小さな地域でも地方でも都市でもどこにも通用されるような計画であり、利用者が誰でも同じ使い方ができるようなモノであった。そのような建築は、人口減少や高齢化・社会情勢など時間の変化による様々な要因によって成り立たなくなっているように感じます。小さな地域ほどより際立ち、建築が社会から置いてけぼりになってきている。対象地域であるうきは市吉井町でも機能と空間がフィットされたような公共建築が老齢化のため取り壊され、同じような建築が建設されたものの社会現象による感染病で利用不可能な現状であり、町の景観にあった外壁だけが地域らしさを醸し出している。空間や利用者は受動的になり建築の魅力もかけてきている。そもその場所の独自の文化やそこしか流れない空気と同じように、その場所にしかな生まれ得ないような営みを肥大化するような空間を、建築を通して作っていくことが、これからの地域の活性化を導くための軸であり建築家の職能としての役割なのではないだろうか。それは既存の都市計画のようなどこにでも通用されるような公共建築の在り方ではなく、地域の営みによりつくような公共性調った建築の在り方だと考えます。

・設計について - 町の個性を抽出 -

1. フィールドワーク

日常の地域住民では慣れた当たり前風景の中で、ヨソモノである私が気になった形態を写真に収め、町の個性とし言語化していく

屋上テラス

2. 抽象モデルへと変換

言語化された町に溢れる形態をモデルへと変換していく。モデルにすることで、目的や機能から離れ、これまでとは違った様々な目的や意味を連想できる。のちに設計の手がかりとする

